

第6次上富良野町総合計画

# かみふ未来ビジョン

暮らし輝き 交流あふれる 四季彩のまち・かみふらの

総論・基本構想

(案)

平成30年3月

上富良野町



# 目次

## 総論

第1章 「かみふ未来ビジョン」とは？ .....	2
1. なぜ計画をつくるのか？ .....	2
2. 計画の位置づけと役割は？ .....	3
3. 計画の構成と期間は？ .....	4
4. 計画の特色は？ .....	5
第2章 上富良野町の概要 .....	6
1. 位置と地勢等 .....	6
2. 人口 .....	8
3. 就業構造 .....	10
第3章 新たなまちづくりに向けて .....	12
1. 上富良野町の特性・資源 .....	12
2. 対応すべき時代の流れ .....	16
3. 反映すべき町民の声 .....	20
4. 新たなまちづくりへの主要課題 .....	29

## 基本構想

第1章 上富良野町が目指す姿 .....	34
1. まちづくりの3つの視点 .....	34
2. 将来像 .....	35
3. 人口の目標 .....	36
第2章 計画の体系と方針 .....	37
1. 計画の体系 .....	37
2. 分野ごとの取り組み方針 .....	38



# 総論

# 第1章 「かみふ未来ビジョン」とは？

## 1. なぜ計画をつくるのか？

総合計画とは、地方自治体が、将来どのようなまちを目指すのか、そしてそのために今後どのようなことをしていくのかをまとめた計画です。

本町ではこれまで、5次にわたる総合計画の策定のもと、計画的なまちづくりを進めてきました。

平成21（2009）年度から平成30（2018）年度までの10年間を計画期間とする第5次上富良野町総合計画では、町の将来像を『四季彩のまち・かみふらの一風土に映える暮らしのデザインー』と定め、その実現に向けた様々な取り組みを積極的に推進してきました。

しかし、この間、少子高齢化・人口減少の急速な進行や全国各地における大規模な自然災害の発生をはじめ、社会・経済情勢は大きく変化してきています。

また、町内では、加速する人口減少への対応が大きな課題となっているほか、町民の意識は、“保健・医療・福祉の充実”、“快適で安全・安心な住環境の整備”、“自然の保護や環境の保全・創造”を重視する傾向が強まっています。

こうした社会・経済情勢の変化や町の課題、町民ニーズに的確に対応しながら、将来にわたって自立・持続可能な上富良野町をつかっていくためには、町民の力を結集することがこれまで以上に必要であり、すべての町民にわかりやすく参画が得られやすい新たなまちづくりの計画を持つ必要があります。

このため、第5次上富良野町総合計画の計画期間が終了することを機に、これを継承・発展させるとともに、新たな視点と発想を加え、第6次上富良野町総合計画を策定します。

なお、本計画が多くの町民に親しまれ、わが町・上富良野町の未来をともにつかっていくという想いを込め、計画の愛称を「かみふ未来ビジョン」と定めます。

## 2. 計画の位置づけと役割は？

本計画は、次のような位置づけと役割を持つ計画として策定しました。

### 計画の位置づけ

#### 上富良野町の最上位計画

町が行うあらゆる活動の基本となるものであり、本町が策定・推進する各種計画のうち、最も上位に位置する計画です。

### 計画の役割

#### 上富良野町民みんなのまちづくりの目標

町民にとっては、これからのまちづくりの方向性や必要な取り組みを行政と共有し、まちづくりに積極的に参画・協働していくための目標です。

#### 上富良野町行政の総合的な経営指針

町行政にとっては、新たな時代の自立した上富良野町をつくりあげ、持続的に発展させていくための総合的な経営指針です。

#### わが町・上富良野町の主張と情報発信

国や北海道、周辺自治体に対しては、必要な施策の実施を要請していくための上富良野町の主張を示すとともに、全国に向けて上富良野町を積極的に情報発信するものです。

### 3. 計画の構成と期間は？

本計画は、「基本構想」、「基本計画」、「実施計画」の3つからなっています。それぞれの構成と期間は、次のとおりです。

#### 基本構想

本町の特性・資源や時代の流れ、町民の声、そしてまちづくりの課題を踏まえ、本町が目指す姿と、その実現に向けた計画の体系や方針などを示したものです。  
計画の期間は、平成 31 (2019) 年度から平成 40 (2028) 年度までの 10 年間とします。

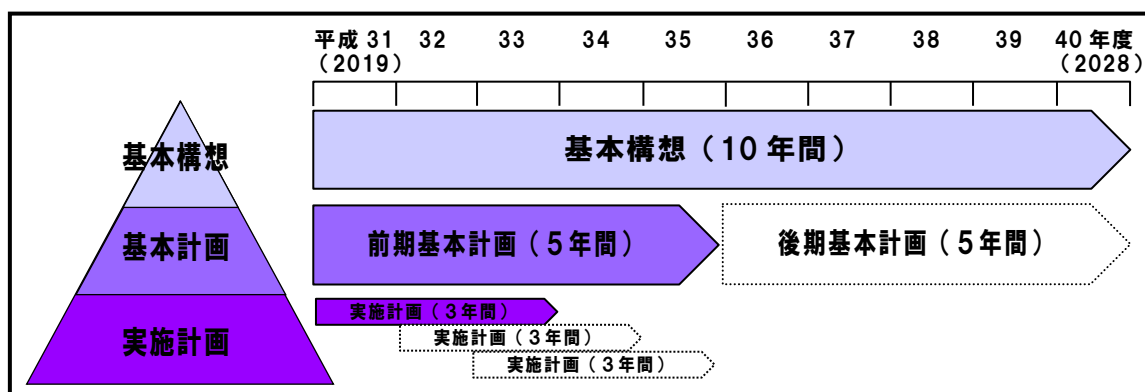
#### 基本計画

基本構想に基づき、各分野において取り組む主要な施策や数値目標などを示したもので、前期・後期に分けて策定します。  
計画の期間は、前期基本計画が平成 31 (2019) 年度から平成 35 (2023) 年度までの 5 年間、後期基本計画が平成 36 (2024) 年度から平成 40 (2028) 年度までの 5 年間とします。

#### 実施計画

基本計画に基づき、具体的に実施する事業の内容や財源、実施年度等を示したもので、別途策定するものとします。  
計画の期間は、向こう 3 年間とし、毎年度見直しを行います。

計画の期間





## 4. 計画の特色は？

本計画は、計画の位置づけや役割、本町をめぐる情勢の変化等を踏まえ、次のような特色を持つ計画として策定しました。

### ◆ “読んでわかる” 計画

町民が本計画を読んで理解し、共感し、まちづくりに積極的に参画・協働することができるよう、町民の声の反映を重視するとともに、町民の目線に立ったシンプルでわかりやすい構成・内容・表現とし、“読んでわかる” 計画として策定しました。

### ◆ “上富良野町らしさ” を追求する計画

本町ならではの魅力をさらに高め、誇りうるまちづくりを進めるため、本町の特性・資源を再発見・再認識し、それを生かして“上富良野町らしさ” を追求する、明るく前向きな計画として策定しました。

### ◆ “行政経営の効率化” につながる計画

限られた経営資源<sup>※1</sup>を有効に活用し、自立した町をつくりあげ、将来にわたって持続していくことができるよう、行財政改革との密接な連携の確保、施策の選択と集中などを行い、“行政経営の効率化” につながる計画として策定しました。

※1 経営する上で必要な人・物・金・情報。

## 第2章 上富良野町の概要

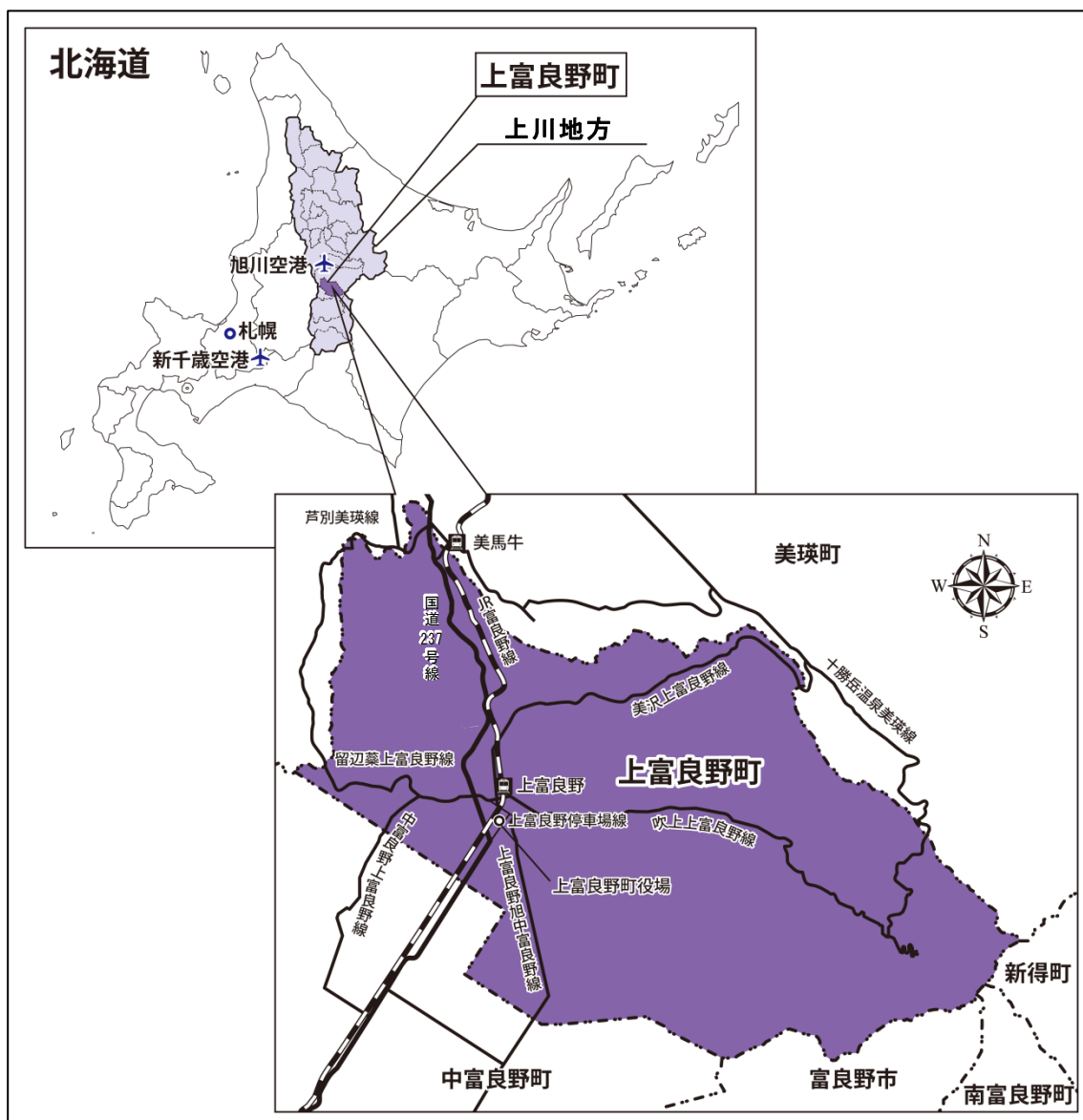
### 1. 位置と地勢等

#### (1) 位置と地勢

本町は、北海道のほぼ中央、富良野盆地の北部に位置し、北から東にかけては美瑛町・新得町・南富良野町、南から西にかけては富良野市・中富良野町に接しています。

東西 24.6 km、南北 19.0 km、総面積 237.10km<sup>2</sup> となっており、東に大雪山国立公園大雪山系の十勝岳、西に夕張山地の先端で芦別山塊といわれる山岳地帯、北に両山系の山麓と、三方を山岳地帯に囲まれています。

上富良野町の位置と概要



## (2) 気候

本町は、内陸部に位置し、山々に囲まれているため、気温の日較差・年格差が大きい内陸性気候を示し、夏の最高平均気温は26℃前後、冬の最低平均気温-15℃前後となっています。

年間降雨量は約1,000mm、年間積雪量は平坦部で約1m、山間部では2～3mに達します。

## (3) 町の歩み

本町の東部の台地には先住民族のいたことを示す遺跡があり、土石器が出土しています。

安政年間(1854年～1860年)のはじめに探検家・松田市太郎、松浦武四郎らがこの地を調査し、明治19(1886)年の道庁設置の直後に植民地に選定され、牧畜の最適地と認められました。

同30(1897)年に富良野盆地開拓の草分けとして三重団体が入植し、開拓の斧と鍬が下ろされました。やがて現在の上富良野と美瑛間、富良野間に鉄道が開通して人口が急速に増加し、農耕と牧畜の村として発展し、同36(1903)年に下富良野村(現富良野市)、大正6(1917)年には中富良野村を分村し、同8(1919)年に1級村制を施行しました。

同15(1926)年に十勝岳が大爆発を起こし、その時発生した融雪型泥流は二十数分で30km下の沃野、鉄道、人家を襲い、死者・行方不明者144人の大惨事となりましたが、被災地の田畑は昭和3(1928)年には作付を再開し、その後10余年で9分通りの収穫を得て復興を果たしました。また、戦前は軍用馬の産地としても栄えました。

戦後の昭和26(1951)年に町制を施行し、同30(1955)年の陸上自衛隊の演習場設置と部隊駐屯により、それまでの農業に加え、商業などがめざましく発展し、農村部・都市部のバランスのとれた町として成長し、平成29(2017)年には開基120年を迎えました。

## 2. 人口

### (1) 総人口

平成 27 (2015) 年の国勢調査によると (以下同様)、本町の総人口は 10,826 人で、平成 22 (2010) 年の 11,545 人から 719 人減少し、増減率は▲6.2%となっています。

これまでの増減率をみると、減少の勢いが直近の 10 年間で加速していることがわかります。

なお、北海道の 179 市町村のうち、この 5 年間で人口が増加したのは 8 市町、減少したのは 171 市町村ですが、本町は、増減率が高い (減少が小さい) 方から 62 番目 (上川総合振興局 23 市町村の中では 11 番目) となっています。

### (2) 年齢 3 区分別人口

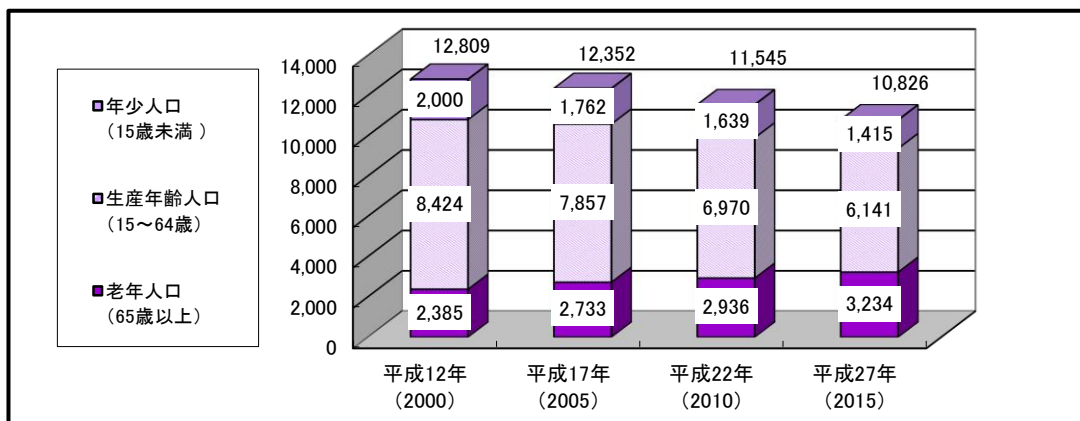
年齢 3 区分別の人口をみると、15 歳未満の年少人口は 1,415 人 (13.1%)、15 歳から 64 歳までの生産年齢人口は 6,141 人 (56.9%)、65 歳以上の老年人口は 3,234 人 (30.0%) となっています。

それぞれの比率を全国及び北海道と比較すると、年少人口比率 (13.1%) は全国平均 (12.6%) や北海道平均 (11.4%) を上回り、子どもの割合は比較的高くなっていますが、老年人口比率 (30.0%) は全国平均 (26.6%) や北海道平均 (29.1%) を上回り、特に高齢化が進んでいることがわかります。

総人口・年齢3区分別人口の推移

(単位：人・%)

項目	年	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)
総人口 [増減率]		12,809 [▲0.6]	12,352 [▲3.6]	11,545 [▲6.5]	10,826 [▲6.2]
年少人口 (15歳未満)		2,000 (15.6)	1,762 (14.3)	1,639 (14.2)	1,415 (13.1)
生産年齢人口 (15～64歳)		8,424 (65.8)	7,857 (63.6)	6,970 (60.4)	6,141 (56.9)
老年人口 (65歳以上)		2,385 (18.6)	2,733 (22.1)	2,936 (25.4)	3,234 (30.0)
年齢不詳		0	0	0	36



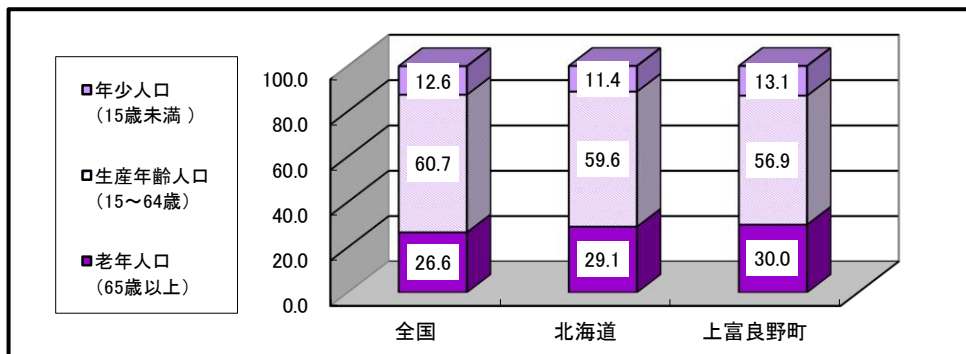
注) 年齢3区分別の人口比率は総人口から年齢不詳を除いた値を母数としている。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため合計が100%を上下する場合がある。

資料：国勢調査

年齢3区分別人口比率の全国・北海道との比較 (平成27 (2015) 年)

(単位：%)

項目	区分	全国	北海道	上富良野町
年少人口 (15歳未満)		12.6	11.4	13.1
生産年齢人口 (15～64歳)		60.7	59.6	56.9
老年人口 (65歳以上)		26.6	29.1	30.0



注) 年齢不詳を除く。

資料：国勢調査

## 3. 就業構造

### (1) 就業者総数

平成 27 (2015) 年の国勢調査によると (以下同様)、本町の就業者総数は 5,661 人で、平成 22 (2010) 年の 5,929 人から 268 人減少し、増減率は▲4.5%となっています。

これまでの増減率をみると、総人口と同様に、減少の勢いが直近の 10 年間で加速していることがわかります。

### (2) 産業 3 部門別就業者数

産業 3 部門別の構成をみると、農業、林業などの第 1 次産業就業者は 975 人 (17.4%)、建設業、製造業などの第 2 次産業就業者は 671 人 (12.0%)、これら以外の第 3 次産業就業者は 3,968 人 (70.7%) となっています。

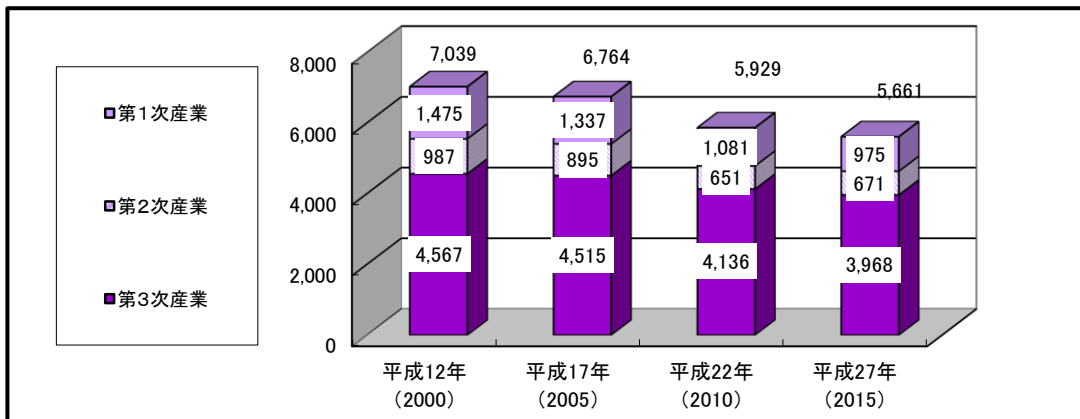
それぞれの比率を全国及び北海道と比較すると、第 1 次産業就業者比率 (17.4%) は全国平均 (4.0%) や北海道平均 (7.4%) を大幅に上回り、第 2 次産業就業者比率 (12.0%) は全国平均 (25.0%) や北海道平均 (17.9%) を下回り、第 3 次産業就業者比率 (70.7%) は全国平均 (71.0%) や北海道平均 (74.7%) を下回り、第 1 次産業に従事する町民の割合が非常に高いことが本町の特徴となっており、農業が基幹産業であることを裏づけています。

また、直近の 5 年間の増減率をみると、第 1 次産業就業者は▲9.8% (▲106 人)、第 2 次産業就業者は 3.1% (20 人)、第 3 次産業就業者は▲4.1% (▲168 人) となっており、第 1 次産業就業者の減少率が最も高く、基幹産業である農業の担い手の確保が大きな課題であることがあらためて認識されます。

就業者総数・産業3部門別就業者数の推移

(単位：人・%)

項目	年	平成12年 (2000)	平成17年 (2005)	平成22年 (2010)	平成27年 (2015)
就業者総数		7,039 [▲2.2]	6,764 [▲3.9]	5,929 [▲12.3]	5,661 [▲4.5]
第1次産業		1,475 (21.0)	1,337 (19.8)	1,081 (18.4)	975 (17.4)
第2次産業		987 (14.0)	895 (13.3)	651 (11.1)	671 (12.0)
第3次産業		4,567 (65.0)	4,515 (66.9)	4,136 (70.5)	3,968 (70.7)
分類不能		10	17	61	47



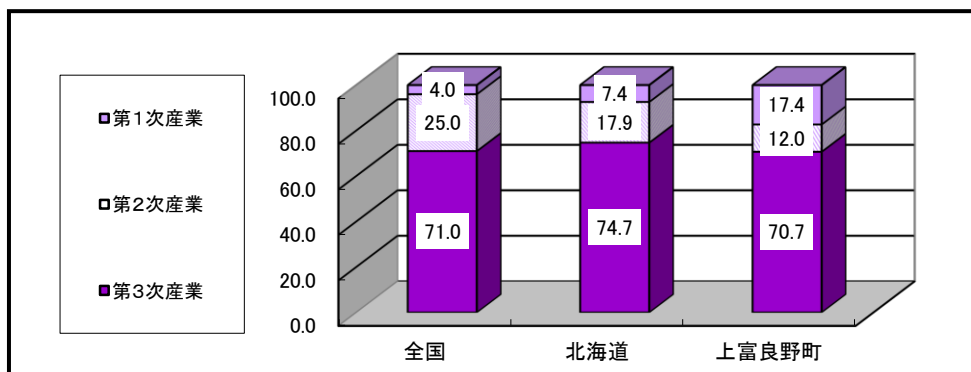
注) 産業3部門別の就業者比率は就業者総数から分類不能を除いた値を母数としている。また、小数点以下第2位を四捨五入しているため合計が100%を上下する場合がある。

資料：国勢調査

産業3部門別就業者比率の全国・北海道との比較 (平成27 (2015)年)

(単位：%)

項目	区分	全国	北海道	上富良野町
第1次産業		4.0	7.4	17.4
第2次産業		25.0	17.9	12.0
第3次産業		71.0	74.7	70.7



注) 分類不能を除く。

資料：国勢調査

## 第3章 新たなまちづくりに向けて

### 1. 上富良野町の特性・資源

新たなまちづくりの方向性を定めるにあたっては、まず、町の魅力をさらに高める視点に立ち、特性・資源を再発見・再認識する必要があります。本町の生かすべき代表的な特性・資源をまとめると、次のとおりです。

#### 1 十勝岳に代表される雄大で美しい自然環境・景観

本町は、大雪山国立公園の一角をなす十勝岳連峰のふもとに広がる町で、三方を山岳地帯に囲まれ、緑輝く山林・原野が総面積の6割以上を占めるとともに、丘陵部や平野部には広大な農地が広がり、雄大で美しい自然環境・自然景観、豊かな田園景観を誇ります。

特に、町内各所からみられる十勝岳の四季折々に変化する風光明媚な景観は、本町ならではの優れた特性・資源となっています。



注) 写真やイラストはイメージ。印刷時に適切なものと差し替え（以下同様）。

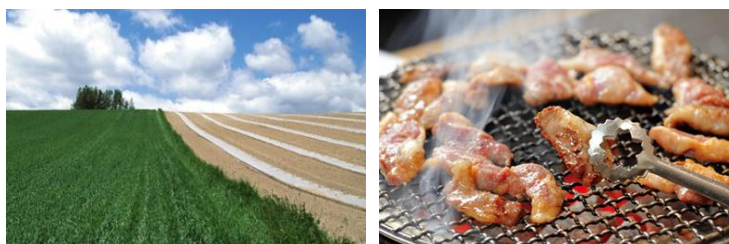


## 2 特色ある農業の営みと豊富な食資源

本町では、農耕に適した気象条件や先人たちが開拓してきた広大な農地を生かし、古くから特色ある農業が営まれてきました。

現在、水稻や麦類、豆類、甜菜、馬鈴薯等の生産をはじめ、道内唯一のホップの生産も行われているほか、畜産も盛んで、特に養豚については道内有数の出荷頭数を誇り、「豚サガリ」や「かみふらのポーク」は本町を代表するメニューとして町内外の人々に愛されています。

また、これらの農畜産物を活用した料理や加工特産品も数多く開発されており、本町はまさに、「農と食の町」といえます。



## 3 多彩で魅力ある観光・交流資源

本町には、これまでみてきた自然環境・景観や食資源のほかにも、ラベンダー発祥の地としての数多くのラベンダー畑や関連施設をはじめ、優れた泉質を誇る十勝岳温泉郷、魅力的なホテルやペンション、オートキャンプ場が併設されている日の出公園、日本画壇を代表する後藤純男画伯の作品を展示したアトリエ併設の後藤純男美術館、花と炎の四季彩まつりをはじめとする祭り・イベント、サイクリングコースやフットパス、さらには十勝岳ジオパーク構想等々、多彩で魅力ある観光・交流資源があります。



## 4 安心して暮らせる充実した健康・福祉環境

本町では、保健や福祉・介護に関する様々な機能を備えた保健福祉総合センターかみんを拠点として、町民一人ひとりを大切にしたいきめ細かな健康づくり施策や福祉・介護施策を推進しており、安心して暮らせる充実した健康・福祉環境にあります。

特に、保健面では、「健康づくり推進のまち」宣言を行い、町民の自主的な健康づくりの促進に力を入れ、町民の健康意識が高まってきており、特定健康診査の受診率が全道で第2位（平成28年度）となっているほか、高齢者の健康づくりやスポーツ活動が活発に行われるなど、着実に成果をあげています。



## 5 自衛隊駐屯地・演習場の存在

本町は、陸上自衛隊の駐屯地と演習場が立地する、「自衛隊と共生する町」であり、自衛隊員とその家族等が町の総人口のおよそ3割を占めています。

町と自衛隊は、これまで様々な分野で交流・連携・協力等を行い、固い信頼関係を築いてきました。

自衛隊の存在は、本町のまちづくりにとって大きなウエイトを占めるものであることから、今後とも、共存・共栄が期待されます。



## 6 愛町心の強い町民、進められる協働のまちづくり

特色ある農業の営みや十勝岳の噴火と復興の歴史などによって、古くから培われてきた町民の町を愛する心や、一つにまとまる力は、未来に引き継ぐべき本町の優れた特性・資源の一つです。

また、本町では、こうした町民性をまちづくりに生かし、本町の未来をともにつくっていくため、自治基本条例や協働のまちづくり基本指針を定めるとともに、近年では協働のまちづくり推進補助制度を創設し、協働のまちづくりに力を入れており、様々な分野で町民の自主的な活動や、町民と行政との協働による活動が進められつつあります。



## 2. 対応すべき時代の流れ

近年、国や地方自治体を取り巻く情勢は大きく変化してきています。これからのまちづくりにおいて、的確かつ柔軟に対応すべき代表的な時代の流れは、次のとおりです。

### 1 少子高齢化・人口減少の急速な進行

わが国は、少子高齢化と人口減少が同時にかつ急速に進行するという、かつて経験したことのない危機的な状況を迎えています。このような中、活力と魅力ある社会を維持するため、全国的に「地方創生<sup>※2</sup>」の新たな展開が進められているほか、「一億総活躍社会<sup>※3</sup>」の実現に向けた取り組みが進められています。

このため、本町においても、町一体となった人口減少対策をはじめ、「地方創生」・「一億総活躍社会」の実現に向けた取り組みを進めていくことが求められます。

### 2 支え合いとともに生きる社会づくりの重要性の高まり

人口構造の変化や価値観の多様化等に伴い、全国的に地域における人と人とのつながりや支え合う機能の弱体化が懸念されていますが、少子高齢化・人口減少が進む中、だれもが役割を持ち、お互いに支え合い助け合いながらともに生きていくことの重要性が再認識されてきています。

このため、本町においても、「地域共生社会<sup>※4</sup>」の実現や人と人とが支え合い助け合うコミュニティづくり、人権の尊重や男女の共同参画に向けた取り組みを進めていくことが求められます。

※2 人口減少の歯止めや東京圏への人口集中の是正などにより、将来にわたって活力と魅力ある地方をつくり出すこと。

※3 若者も高齢者も、女性も男性も、障がいや難病のある人も、一度失敗を経験した人も、一人ひとりが尊重され、それぞれの希望がかない、能力を發揮でき、生きがいを感じることができる社会。

※4 制度・分野ごとの「縦割り」や「支え手」、「受け手」という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が「我が事」として参画し、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともにつくっていく社会。

### 3 安全・安心への意識の高まり

未曾有の被害をもたらした東日本大震災以降においても、全国各地で地震や大雨、火山の噴火等による大規模な自然災害が相次いでいるほか、子どもを巻き込む犯罪や事故、悪質商法・特殊詐欺による被害、食の安全をゆるがす問題なども後を絶たず、人々の安全・安心に対する意識がさらに高まっています。

このため、本町においても、十勝岳の噴火に備えたさらなる防災・減災対策の推進をはじめ、あらゆる分野で安全・安心の視点を重視した取り組みを進めていくことが求められます。

### 4 環境保全・エネルギー対策の重要性の高まり

地球温暖化の一層の深刻化、大気汚染や海・河川の水質汚濁をはじめとする国・地域における環境問題の発生等を背景に、国や地域はもとより、住民一人ひとりが、環境保全やエネルギーの循環に向けた具体的行動を起こすべき時代を迎えています。

このため、本町においても、自然環境の保全やごみのリサイクル、再生可能エネルギーの利活用をはじめ、低炭素<sup>※5</sup>・循環・自然共生を基本とした社会の形成に向けた取り組みを進めていくことが求められます。

### 5 地方における景気回復の遅れ

近年、わが国の景気は回復傾向にありますが、地方においてはその実感に乏しく、地方の産業・経済は依然として厳しい状況が続いており、第1次産業の担い手の減少や既存商店街の空洞化、企業立地の停滞等の状況がみられ、地域全体の活力の低下や雇用の場の不足が問題となっています。

※5 地球温暖化の最大の原因といわれる二酸化炭素の排出量を削減すること。

このため、本町においても、こうした厳しい状況を十分に踏まえながら、地方の産業・経済に活力を取り戻す取り組みを模索していくことが求められます。

## 6 教育・スポーツ振興に向けた取り組みの進展

わが国では、将来的な社会の変化を見通し、第3期教育振興基本計画を策定し、教育の振興に向けた様々な改革を進めています。また、オリンピック・パラリンピックの東京開催を見据え、スポーツ庁を創設するとともに、第2期スポーツ基本計画を策定し、スポーツ立国の実現に向けた取り組みを進めています。

このため、本町においても、こうした動きを踏まえ、また地域資源を十分に生かしながら、特色ある教育行政・スポーツ行政を進めていくことが求められます。

## 7 情報化・グローバル化の進展

様々な情報通信機器・サービスの普及により、情報通信環境はさらに向上し続けているほか、IoT<sup>※6</sup>やAI<sup>※7</sup>なども生活に身近なものとなってきており、あらゆる分野でICT<sup>※8</sup>を利活用する時代を迎えています。また、人・物・情報の国境を越えた交流がさらに活発化し、あらゆる分野でグローバル化が進んでいます。

このため、本町においても、こうした情報化・グローバル化をこれからのまちづくりに欠かせない要素としてとらえ、積極的に取り組んでいくことが求められます。

※6 Internet of Things の略。様々な物体に通信機能を持たせ、インターネットに接続したり相互に通信することにより、自動認識や自動制御、遠隔計測などを行うこと。

※7 Artificial Intelligence の略。人工知能。

※8 Information and Communications Technology の略。情報通信技術。

## 8 地方の自立の時代の到来

「地方分権」がさらに進展するとともに、「地方創生」の時代を迎え、これからの地方自治体には、地域における多様な人的資源を生かしながら、自らの権限と財源によって、独自の政策を展開していくことが一層強く求められます。

このため、本町においても、町民をはじめとする多様な主体の参画・協働を促しながら、行財政運営のさらなる効率化を進め、将来にわたって自立・持続可能なまちづくり体制を確立していくことが求められます。

### 3. 反映すべき町民の声

本町では、本計画策定への町民参画、町民の声の反映を重視し、町民・高校生等・中学生・職員のアンケート調査や、小学生のまちづくり絵画・作文の募集、町内で活躍する各種団体のグループインタビューなどを行いました。

その中から、町民・高校生等・中学生のアンケート調査の代表的な設問結果を抜粋すると、次のとおりです。

なお、本調査は、平成29(2017)年6月～7月に、18歳以上の町民2,500人(無作為抽出)、15～18歳の高校生等313人(全員)、中学生299人(全員)を対象に実施し、有効回収数及び有効回収率は、町民900(36.0%)、高校生等105(33.5%)、中学生283(94.6%)となっています。

#### ① 町への愛着度と今後の定住意向(町民・高校生等・中学生)

##### ■町への愛着度

【町民】“愛着を感じている”	75.8%
【高校生等】“好きだ”	76.2%
【中学生】“好きだ”	85.1%
(“愛着を感じている”・“好きだ”は「とても～」と「どちらかといえば～」の合計)	

##### ■今後の定住意向

【町民】“住みたい”	67.9%
【高校生等】“住みたい”	30.4%
【中学生】“住みたい”	38.8%
(“住みたい”は「住みたい」と「どちらかといえば住みたい」の合計)	

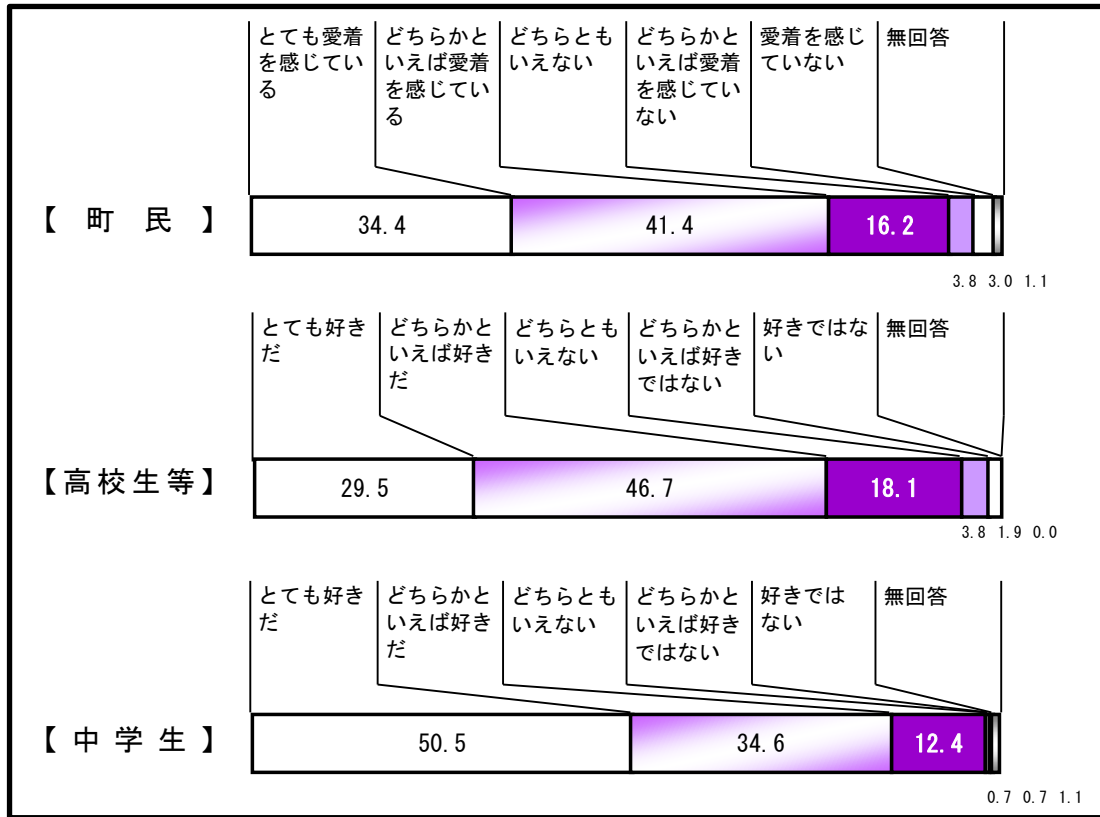
町への愛着度と今後の定住意向については、上記のとおり結果となっており、愛着度は町民・高校生等・中学生ともかなり高いものの、定住意向については高校生等と中学生が目立って低く、「町のことは好きだが、住みたいとは思わない」という中高生等も少なくないと考えられます。

これらのことから、高い愛着度を維持するとともに、中高生をはじめとする若い世代の定住意向を高める環境づくりをいかに進めていくかが今後の大きな課題としてあげられます。



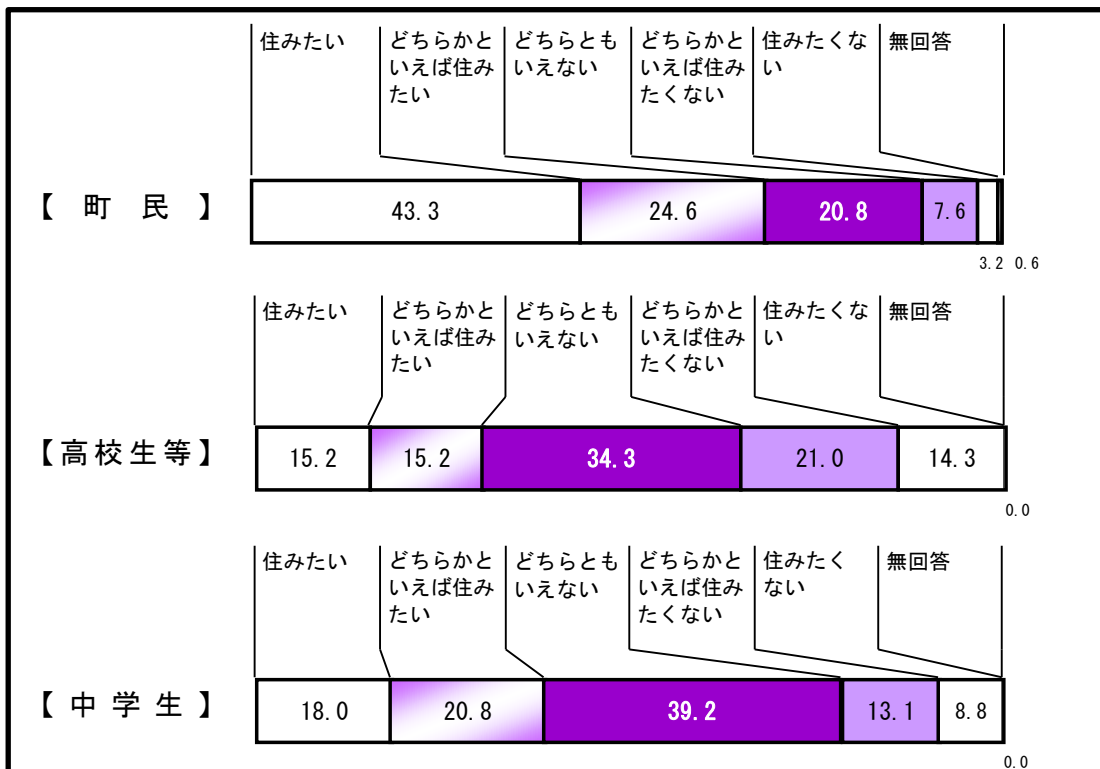
町への愛着度（町民・高校生等・中学生）

（単位：％）



今後の定住意向（町民・高校生等・中学生）

（単位：％）



## ② 町の各環境に関する満足度（町民）

### ■満足度が高い項目

- 第1位 消防・救急体制
- 第2位 水道の整備状況
- 第3位 下水道の整備状況
- 第4位 保健サービス提供体制
- 第5位 し尿処理の状況

### ■満足度が低い項目

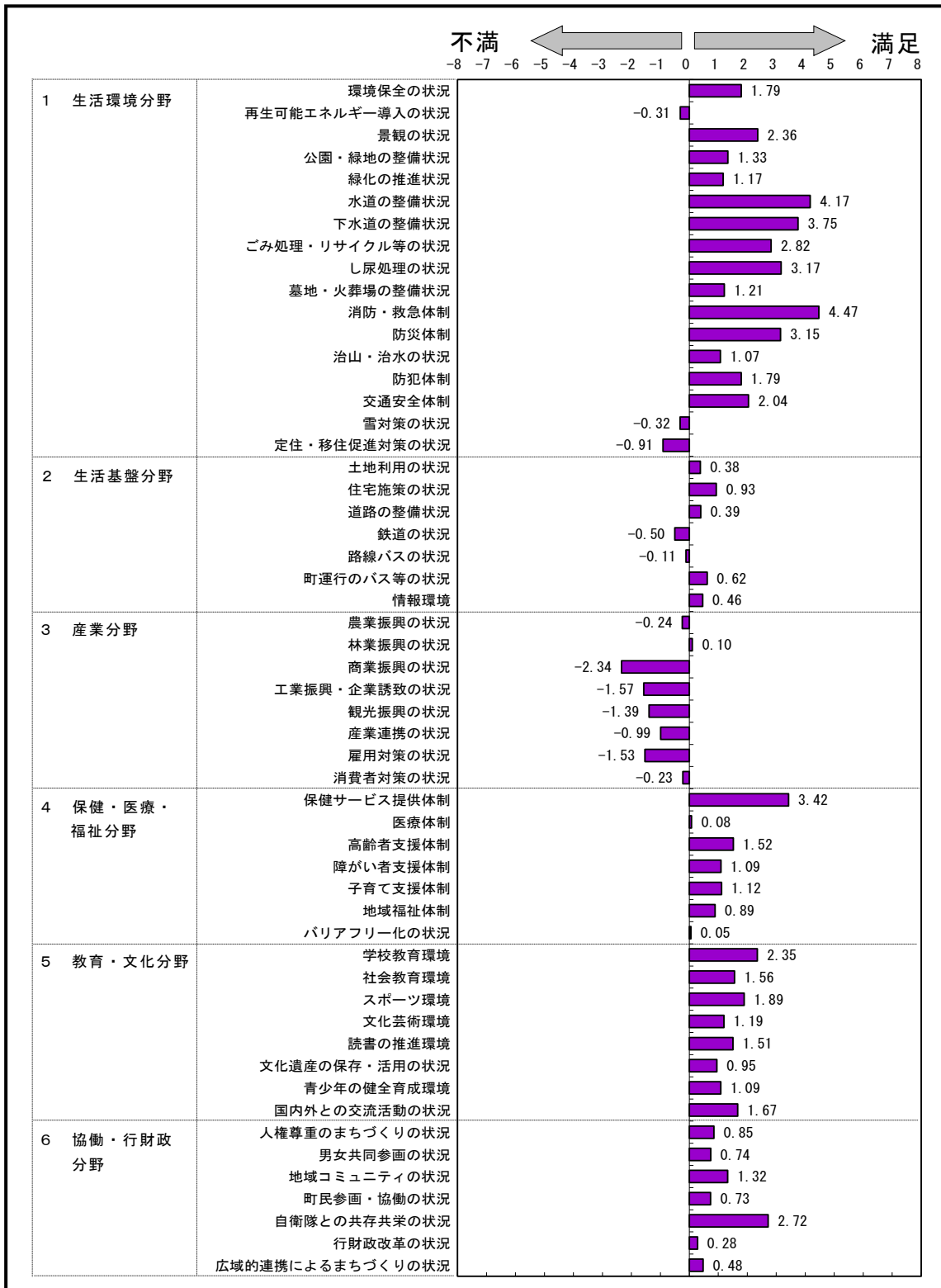
- 第1位 商業振興の状況
- 第2位 工業振興・企業誘致の状況
- 第3位 雇用対策の状況
- 第4位 観光振興の状況
- 第5位 産業連携の状況

町の各環境に対する町民の満足度を把握するため、6分野54項目を設定し、項目ごとに、「満足している」、「どちらかといえば満足している」、「どちらともいえない」、「どちらかといえば不満である」、「不満である」の5段階で評価してもらい、点数化しました。

その結果、上記のとおりのおりとなり、54項目のうち、満足度がプラス評価の項目が42項目、マイナス評価の項目が12項目と、大部分の項目がプラス評価で、全体的な町の評価は高くなっていますが、産業分野全般と定住・移住、鉄道、路線バス、雪対策等に関する項目の満足度が低く、これらに課題を残しているといえます。

町の各環境に関する満足度（町民）

（単位：評価点）



注) 評価点は、「満足している」の回答者数×10点+「どちらかといえば満足している」の回答者数×5点+「どちらともいえない」の回答者数×0点+「どちらかといえば不満である」の回答者数×-5点+「不満である」の回答者数×-10点÷（それぞれの回答者数の合計）により算出。

### ③ 町の各環境に関する重要度（町民）

#### ■重要度が高い項目

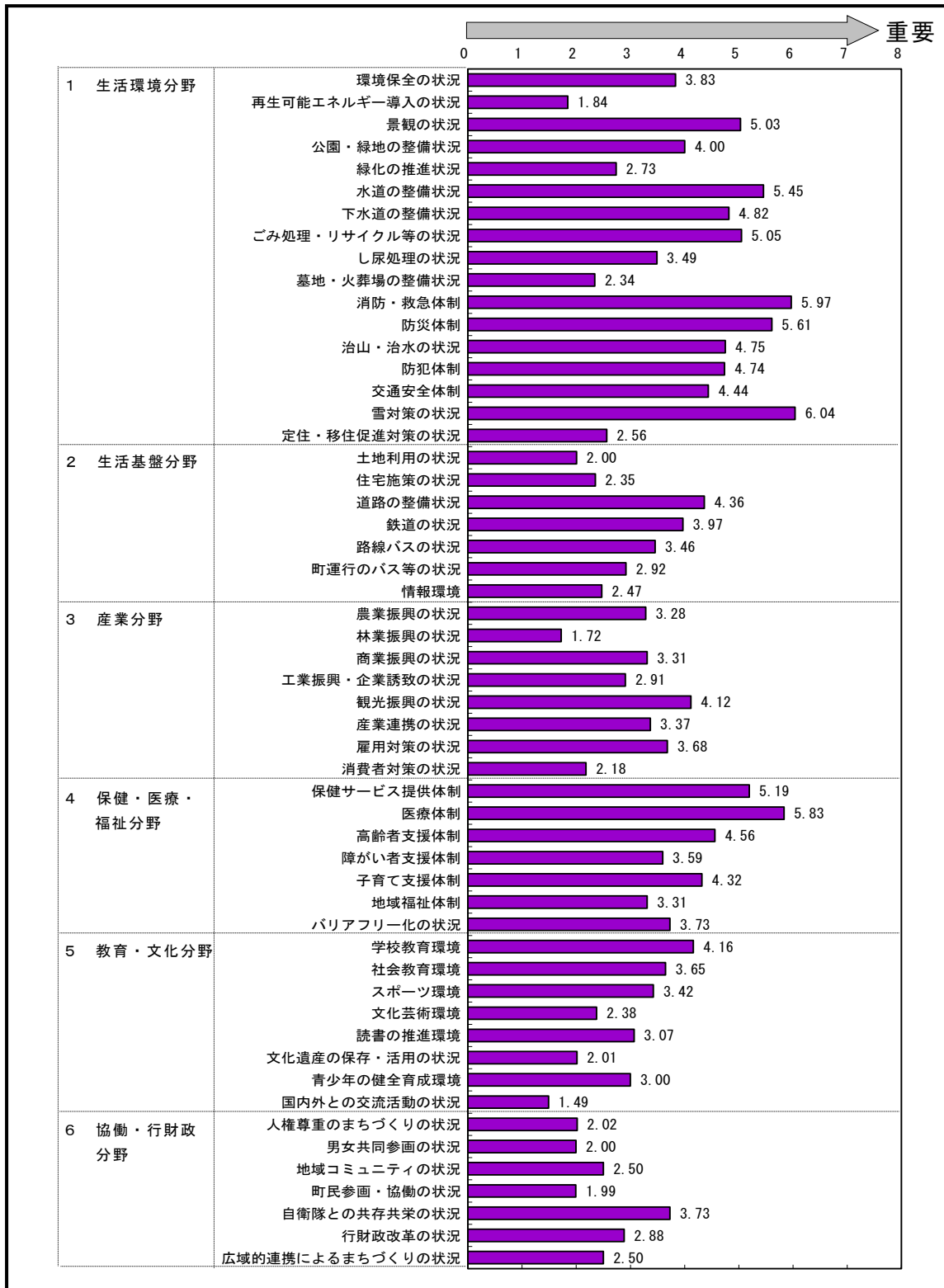
- 第1位 雪対策の状況
- 第2位 消防・救急体制
- 第3位 医療体制
- 第4位 防災体制
- 第5位 水道の整備状況
- 第6位 保健サービス提供体制
- 第7位 ごみ処理・リサイクル等の状況
- 第8位 景観の状況
- 第9位 下水道の整備状況
- 第10位 治山・治水の状況

町の各環境に対する町民の重要度を把握するため、満足度と同じ6分野 54 項目について、「重視している」、「やや重視している」、「どちらともいえない」、「あまり重視していない」、「重視していない」の5段階で評価してもらい、点数化しました。

その結果、上記のとおりのおりとなり、これら上位 10 項目をみると、8項目が生活環境分野、2項目が保健・医療・福祉分野の項目で、“快適で安全・安心な住環境の整備”と“保健・医療・福祉の充実”が重視されていることがうかがえます。

町の各環境に関する重要度（町民）

（単位：評価点）



注) 評価点は、「重視している」の回答者数×10点+「やや重視している」の回答者数×5点+「どちらともいえない」の回答者数×0点+「あまり重視していない」の回答者数×-5点+「重視していない」の回答者数×-10点)÷(それぞれの回答者数の合計)により算出。

## ④ 今後のまちづくりの特色

### ■今後のまちづくりの特色

#### 【町 民】

第1位 健康・福祉のまち

第2位 快適住環境のまち

第3位 環境保全のまち

#### 【高校生等】

第1位 快適住環境のまち（快適で安全・安心に暮らせるまち）

第2位 環境保全のまち（自然や環境にやさしいまち）

第3位 観光・交流のまち（観光がさかんなまち）

#### 【中学生】

第1位 環境保全のまち（自然や環境にやさしいまち）

第2位 快適住環境のまち（快適で安全・安心に暮らせるまち）

第3位 生涯学習・文化のまち（文化・スポーツ活動がさかんなまち）

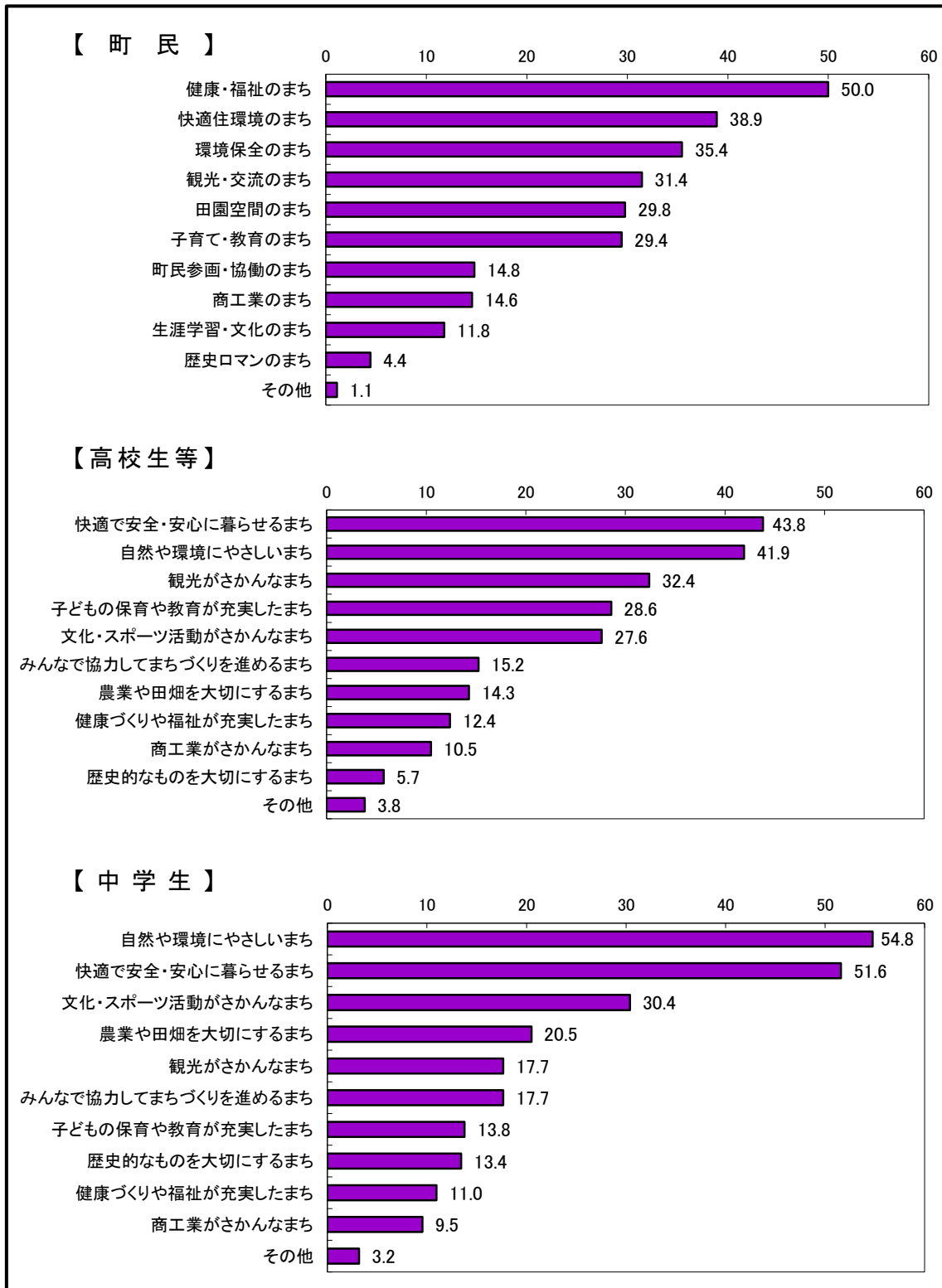
今後のまちづくりの特色については、上記のとおり結果となっており、町民については、前問の「町の各環境に関する重要度」の結果を裏づけるように、“保健・医療・福祉の充実”や“快適で安全・安心な住環境の整備”に関心が集まっていることがうかがえます。

また、高校生等や中学生については、“快適で安全・安心な住環境の整備”と“自然の保護や環境の保全・創造”の2つを重視する傾向がみられ、特に中学生では、“自然の保護や環境の保全・創造”を望む声が最も強く、環境保全意識が非常に強いことがうかがえます。

なお、町民の結果を年齢別・居住地区別でみたところ、10・20代では「快適住環境のまち」、30代では「子育て・教育のまち」、郡部では「田園空間のまち」が第1位となっており、若い世代では“快適で安全・安心な住環境の整備”、子育て世代では“子育て環境や子どもの教育環境の充実”、郡部では“農業・農村環境の整備・保全”を望む声が強くなっています。

今後のまちづくりの特色（町民・高校生等・中学生）

（単位：％）



今後のまちづくりの特色（町民／全体・年齢別・居住地区別／上位3位）

（単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体		健康・福祉のまち 50.0	快適住環境のまち 38.9	環境保全のまち 35.4
年齢	10・20代	快適住環境のまち 46.3	環境保全のまち 41.8	子育て・教育のまち 40.3
	30代	子育て・教育のまち 57.7	健康・福祉のまち 43.3	観光・交流のまち 39.4
	40代	健康・福祉のまち 44.7	環境保全のまち 42.7	快適住環境のまち 41.3
	50代	健康・福祉のまち 50.8	環境保全のまち 40.9	観光・交流のまち 38.6
	60代	健康・福祉のまち 49.2	快適住環境のまち 38.0	田園空間のまち 36.3
	70歳以上	健康・福祉のまち 60.3	快適住環境のまち 38.2	環境保全のまち 30.0
居住地区	市街地	健康・福祉のまち 50.1	快適住環境のまち 40.6	環境保全のまち 35.1
	郡部	田園空間のまち 51.1	健康・福祉のまち 49.6	環境保全のまち 37.6



## 4. 新たなまちづくりへの主要課題

これまでみてきた人口・就業構造の推移や特性・資源、時代の流れ、町民の声を総合的に勘案し、新たなまちづくりへの最重要課題と、それを踏まえた分野別課題をまとめると、次のとおりです。

### (1) 最重要課題

#### 町一体となった人口減少の対策

人口減少の勢いが加速し、農業・商工業・観光などの産業活動や地域におけるコミュニティ活動をはじめ、様々な活動を担う「人」が少なくなり、これまでの町内における経済循環や住民自治など、町の存在そのものを支える仕組みが崩れていくことが危惧される中、本町が今後対応すべき最も重要かつ基本的な課題は、「町一体となって人口減少に歯止めをかけること」です。

町民がずっと住み続けたいくなるまちづくり、町外の人々が本町に移り住みたいくなるまちづくり、本町で子ども生み育てたいくなるまちづくり、健やかで長生きできるまちづくりを進めていくためには、一つの分野だけでなく、生活環境分野や保健・医療・福祉分野、教育・文化分野、産業分野、生活基盤分野など、様々な分野における取り組みを一体的に進め、総合的なレベルアップを図っていく必要があります。

## (2) 分野別課題

### 1 安全と環境を重視した住みたくなる生活環境づくり

安全・安心への人々の意識が高まるとともに、環境保全・エネルギー対策の重要性が高まる中、本町においても、アンケート結果にみられるように、“快適で安全・安心な住環境の整備”や“自然の保護や環境の保全・創造”に町民の関心が集まっています。

このため、活火山・十勝岳の存在を踏まえ、また、雄大で美しい自然環境・景観を誇る町として、安全性の向上と環境の保全を重視した生活環境の整備を図り、町民がずっと住み続けたくなる、町外の人々が本町に移り住みたくなる環境づくりを進めていく必要があります。

### 2 健康・長寿のまちづくりと子育て支援の一層の充実

急速に進む少子高齢化への対応が求められる中、本町においても、アンケート結果にみられるように、“保健・医療・福祉の充実”に町民の関心が集まっているほか、子育て世代を中心に“子育て環境の充実”を求める声も強くなっています。

このため、これまで力を入れてきた健康・福祉環境や愛町心の強い町民性をさらに生かし、保健・医療・福祉施策、子育て支援施策の一層の充実を図り、すべての町民が支え合いながら健康で長生きできる環境づくり、本町で子どもを生き育てたくなる環境づくりを進めていく必要があります。

### 3 農業・商業・観光を柱とした活力ある産業の育成

地方の産業・経済が依然として厳しい状況にある中、本町においても、各産業を取り巻く情勢は厳しく、アンケート結果にみられるように、産業分野全般に関する町民の満足度が低くなっています。また、郡部においては、“農業・農村環境の整備・保全”が求められています。

このため、特色ある農業や豊富な食資源、多彩で魅力ある観光・交流資源をさらに生かし、農業と観光・交流を柱に、活力ある産業の育成を進めるとともに、これによる雇用の場の確保、観光・交流から移住への展開を目指していく必要があります。

### 4 上富良野町ならではの特色ある教育環境づくり

教育の振興に向けた様々な改革が進められ、教育に対する人々の関心が一層高まる中、本町においても、アンケート結果にみられるように、子育て世代を中心に“子どもの教育環境の充実”を求める声が強くなっています。

また、町民が生きがいに満ちた充実した人生を送るためには、だれもが自ら学び、活動できる生涯学習社会の形成が必要です。

このため、雄大で美しい自然環境・景観や特色ある農業をはじめとする本町の特性・資源をさらに生かし、本町ならではの特色ある教育環境の整備を推進し、未来を拓く人材の育成と、この町で子どもに教育を受けさせたいと思える環境づくり、生涯学習社会の形成を進めていく必要があります。

## 5 町の持続的発展を支える生活基盤の整備

人口減少に歯止めをかけ、今後も本町が持続的に発展していくためには、これまでみてきた生活環境の整備や保健・医療・福祉・子育て支援の充実、産業の育成、教育環境の整備はもとより、それらを支える生活基盤の整備が必要ですが、アンケート結果にみられるように、鉄道や路線バスをはじめ、土地利用や道路、情報環境などの生活基盤分野に関する町民の満足度が比較的低くなっています。

このため、計画的な土地利用のもと、道路網の整備や公共交通の充実、情報化の一層の推進、住宅の整備など、町の持続的発展を支える便利で安全な生活基盤の整備を進めていく必要があります。

## 6 さらなる住民力の結集と行財政改革の推進

地方の自立が強く求められる中、限られた経営資源を有効に活用しながら、活力と魅力ある自立した町を創造し、将来にわたって持続的に経営していくためには、これまで以上の住民力の結集と行財政運営の効率化が必要不可欠です。

このため、愛町心の強い町民性やこれまでの協働のまちづくりの取り組みをさらに生かしながら、町民の参画・協働やコミュニティ活動の活性化を促し、住民力を結集したまちづくりを一層進めていくとともに、行財政のあり方について常に点検・評価し、さらなる行財政改革を進めていく必要があります。

# 基本構想

# 第1章 上富良野町が目指す姿

## 1. まちづくりの3つの視点

「総論」を踏まえ、本町が新しいまちづくりを進めるにあたって、すべての分野において基本とする3つの視点を次のとおり定めます。

### 1 穏やかに安心して暮らせるまちづくり

町民一人ひとりの命や個性、生活を大切にし、安全・安心、健康を重視した取り組みを推進し、穏やかに安心して暮らせる安定感のあるまちづくりを進めます。

### 2 人が行き交うまちづくり

農業と観光・交流を柱とした産業の振興、学習・文化・スポーツ活動やコミュニティ活動をはじめとする町民活動の活発化を促し、多くの人々が行き交うまちづくりを進めます。

### 3 協働のまちづくり

町民と町民、町民と行政とのつながりや結びつきをさらに強め、多くの人々が知恵と力を合わせ、協働するまちづくりを進めます。

## 2. 将来像

将来像は、本町が10年後に目指す姿を町内外に示すものであり、これからのまちづくりのシンボルとなるものです。

「総論」及び「まちづくりの3つの視点」に基づき、すべての分野において、雄大で美しい自然環境・景観や特色ある農業をはじめとする本町の特性・資源を最大限に生かしながら、「穏やかに安心して暮らせるまちづくり」、「人が行き交うまちづくり」、「協働のまちづくり」を進め、すべての町民がずっと住み続けたいまち、町外から多くの人を訪れ、移り住みたいまちをみんなで作くりあげ、未来へ引き継いでいくという想いを込め、将来像を次のとおり定めます。

**暮らし輝き 交流あふれる  
四季彩のまち・かみふらの**

### 3. 人口の目標

人口の目標は、平成 27（2015）年度に策定した「上富良野町人口ビジョン」に基づき、次のとおり定めます。

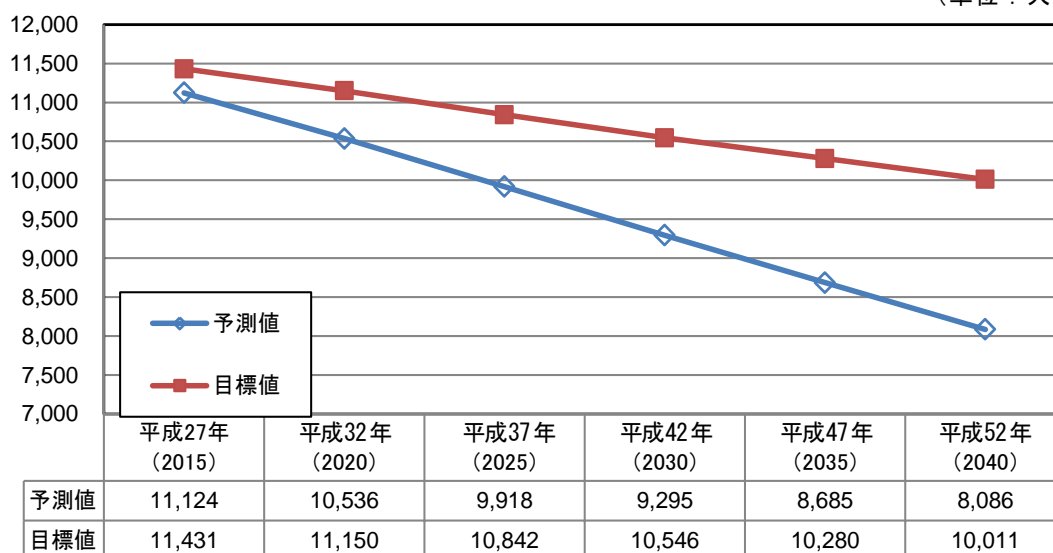
なお、「上富良野町人口ビジョン」では、本町の人口の将来展望として、「平成 52（2040）年に1万人程度の確保を目指す」と定めており、本計画の目標年度である平成 40（2028）年度の人口の予測値・目標値については、その過程の数値を類推して算出し、10人単位としています。

平成 40 年度（2028）年度の人口の予測値と目標値（国勢調査ベース）

**予測値： 9, 540人**  
**目標値： 10, 660人**

参考：人口の長期的な見通し（「上富良野町人口ビジョン」より）

（単位：人）



注 1) 予測値は、国立社会保障・人口問題研究所の推計に準拠した推計による。

注 2) 目標値は、合計特殊出生率等を望ましい値に設定した町独自の推計による。



## 第2章 計画の体系と方針

### 1. 計画の体系

将来像の実現に向け、計画の体系（6つの分野目標と30の施策項目）を次のとおり定めます。



## 2. 分野ごとの取り組み方針

### 1 きれいで安全・安心な生活環境のまち

- ①環境・景観、エネルギー
- ②ごみ処理等環境衛生
- ③上・下水道
- ④公園・緑地
- ⑤消防・防災
- ⑥交通安全・防犯
- ⑦消費者対策



町民がずっと住みたくなる、町外の人々が移り住みたくなる、自然と共生する美しい生活環境づくりを進めるため、町一体となった環境・景観の保全やエネルギーの循環、ごみの適正処理・リサイクル等に取り組むとともに、快適な生活に欠かせない上・下水道の充実、いこい・やすらぎの場となる公園・緑地の充実を図ります。

また、すべての町民が安全に安心して住み続けられる、あらゆる危機に強いまちづくりを進めるため、活火山・十勝岳の存在や全国各地で相次ぐ大規模自然災害の教訓を踏まえ、消防・防災体制の一層の強化、町全体の強靱化を図るとともに、近年の環境変化を踏まえた交通安全・防犯対策、消費者対策を推進します。

### 2 みんなが元気になる健康・福祉のまち

- ①保健・医療
- ②子育て支援
- ③高齢者支援
- ④障がい者支援
- ⑤地域福祉
- ⑥国民健康保険・国民年金等



町民一人ひとりが健康寿命を延ばし、元気に暮らせるよう、また、安心できる医療の確保に向け、きめ細かな保健サービスの提供や町立病院の改築を図るとともに、子どもが一人でも多く生まれ、健やかに育つよう、結婚から育児に至る切れ目のない支援を推進します。

また、高齢者や障がい者が住み慣れた地域で自分らしくいきいきと暮らせるよう、充実した健康・福祉環境や愛町心の強い町民性を生かし、地域における包括的なケアシステムの構築や「地域共生社会」の形成に向けた取り組みを進めるほか、町民が健康で不安のない老後の生活を送れるよう、国民健康保険制度や国民年金制度の周知等に努めます。

### 3 活力と交流あふれる 産業のまち

- ①農林業
- ②商工業
- ③観光・交流
- ④雇用対策



特色ある農業の町として、今後とも農業をまちづくりの中心に据え、担い手の育成をはじめとする多面的な農業振興施策を積極的に推進するとともに、森林の適正管理・整備を促進します。

また、活力とにぎわいのあるまちづくりに向け、商工業経営の継続・発展や新規開業等への支援、企業誘致などにより、商工業の活性化を図るほか、交流人口の拡大と観光・交流から移住への展開を見据え、多彩で魅力ある観光・交流資源の有効活用や複合的な機能を持つ拠点の整備などにより、観光・交流機能の強化を図ります。

さらに、これらの産業振興施策と連動しながら、雇用の確保・拡大に向けた取り組みを推進します。

### 4 未来を拓く人を育む 教育・文化のまち

- ①学校教育
- ②社会教育
- ③スポーツ
- ④文化芸術



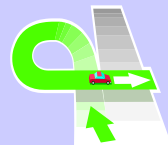
未来を拓く創造性豊かで心身ともにたくましい人材の育成、この町で子どもに教育を受けさせたいと思えるまちづくりに向け、本町の特性等を踏まえた特色ある学校教育を推進するとともに、上富良野高等学校の存続に向けた取り組みを町一体となって進めます。

また、町民が生涯にわたって自ら学び、活動し、その成果を生かせるよう、各世代等の課題に応じた学習機会の提供を図ります。

さらに、町民が生きがいと感動に満ちた暮らしを送れるよう、町民主体のスポーツ・文化活動の促進や貴重な文化遺産の保存・活用を図るほか、地域活性化と人材育成を見据え、三重県津市などとの交流活動の充実を図ります。

## 5 発展を支える生活基盤が整ったまち

- ①土地利用
- ②道路・公共交通
- ③情報化
- ④住環境整備



町全体の一体的かつ持続的な発展に向け、将来を見据えた計画的な土地利用を推進するとともに、町民や観光客の利便性・安全性の向上に向け、国道・道道の整備促進や町道・橋梁の整備、除雪体制の充実、鉄道・バス交通の維持・充実を図ります。

また、これからのまちづくりに欠かせない社会基盤として、町全体の情報化をさらに進めます。

さらに、移住者に対する空家・空地情報の収集・提供をはじめ、生活の基盤となる快適で安全・安心な住宅・住環境の確保に向けた取り組みを進めます。

## 6 とともに生き、ともにつくるまち

- ①人権尊重・男女共同参画
- ②コミュニティ
- ③地域間交流
- ④協働、自衛隊との共生
- ⑤行財政運営



すべての人の人権が尊重され、ともに生き、ともに活躍することができるよう、人権尊重社会・男女共同参画社会の形成に向けた啓発活動や条件整備を進めます。

また、愛町心の強い町民性を生かしながら、支え合い助け合い、ともに地域をつくるコミュニティ活動を促進するとともに、町民と町民、町民と行政とが知恵と力を合わせた協働のまちづくり、自衛隊との共存・共栄のまちづくりを進めます。

さらに、自立・持続可能な経営体制の確立に向け、さらなる行財政改革を推進するとともに、公共施設の総合的な管理、広域連携による効果的・効率的なまちづくりを進めます。

第6次上富良野町総合計画「かみふ未来ビジョン」総論・基本構想の構成

